

## 誰もが気軽に入り、一緒に学び、遊び、食事ができる居場所を目指して

市内の長尾地区では「一緒にプロジェクト」の一環として、毎月1回、地域の子どもと高齢者が一緒に食事する「地域食堂」が開催されています。「地域食堂」は、地域の皆が気軽に集まって話したり食事をしたりしながらお互いの事情や環境を知り、その人や家庭にそっと寄り添い、課題があれば支援や課題解決の方策を探る活動です。この活動は、長尾地区のみならず多くの方が関わり、協働で行われています。代表の福住美壽さんと見市晃さんをはじめ6人の方にお話をお聴きました。

### 動機は災害時のボランティア活動

福住さんは平成7年(1995年)の阪神・淡路大震災の避難所で「人のつながりが人を助ける」と考えた。そして、平成11年(1999年)に民生・児童委員となり、平成21年(2009年)8月に兵庫県佐用町の豪雨災害をボランティアとして目の当たりにし、「安否確認は地域の民生・児童委員がやるべきだ」と強く感じた。

### パートナーは地域のつながり

これを機に、福住さんは他の民生・児童委員や協力委員の方に呼びかけ、高齢者の居場所としてサロンを立ち上げ、気になる高齢者には食事を提供し、高齢者世帯を訪問し要介護者リストを作成した。

長尾地区は新旧の住民が混在しお互いの交流はあまりなかったが、民生・児童委員と自治会がお互いの名簿を交換し合同研修を行うことでつながりができた。そこにまちづくり協議会が加わり、三者が連携し避難所運営マニュアルを作成するなど、地域の実情に応じた防災への取組みをしている。

さらに、高齢者への対応について協議することで社会福祉法人愛和会とのつながりもできた。

### これまでの経過と今後の展開

「一緒にプロジェクト」の「地域食堂」は、地域の色々な分野や立場の人が地域福祉について話し合う円卓会議から生まれた。会議では、障がい者や生活困窮者、高齢者、子どもの地域での生活など様々な課題が話し合われる。実際に公園やコンビニを見回ると、母親の仕事のため朝まで一人で過ごす子、夜遅くまでコンビニで過ごす子がいる

ことが分かった。

「昔から人間は群れて暮らしていた」ということから、皆と一緒に学び、遊び、食事ができる居場所を作ろうと呼びかけたところ、地域の多くの方が賛同し「一緒にプロジェクト」がスタートした。大事なことは、子どもや大人、お年寄りや若者、認知症の方、悩んでいる方等々誰もが気軽に入ることができること。皆が一緒にいる場を作ることで、その人の地域や家庭での生活を知り、その人や家庭にそっと寄り添い、課題があれば支援や課題解決ができる。

会場は愛和会の「あいわ結愛ガーデン」の地域交流スペース。管理栄養士の指導のもと、皆がそれぞれの役割を果たし調理する。施設利用の方もお手伝いする。役割は誰かに強制されることもなく自然に決まる。地域には、何かをしたい・やらなければならないと思う人や1時間でも協力しようと思う人がいる。医師会や自治会連合会、西谷地区の方などお米や野菜等を提供する人もいる。

福住さんたちは、「自分たちの動きを地域に見せることで協力者が増えていく。皆は『皆が安心して暮らせるまち』を意識している」と思って活動している。『皆の笑顔が活動の原動力』だそう。

この活動を続けていくための新たな人材探しも既に始まっている。しかし、見市さんは「地域の活動に男性の参画が少ない。いかにして、より多くの男性に参加・参画していただくかが課題」と言われる。また、障がいのある方にも目を向けることも大切である。そして、地域のつながりが市全体のつながりになることを望んでおられる。



みんなでワイワイ調理

おいしそう!  
たべたいな〜♪



美味しいカレーをみんなで食べると、もっと美味しくなります。